

『真昼の決闘』	原題 <i>High Noon</i>	1952 年	執筆: 清水 純子
制作国	アメリカ		
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	スタッフ: 監督フレッド・ジンネマン/ 本カール・フォアマン/ 原案ジョン・W・カニンガム/ 製作スタンリー・クレイマー/ キャスト: ゲイリー・クーパー: ウィル・ケイン保安官/ グレイス・ケリー: 妻エミイ/ トーマス・ミッチェル: ヘンダーソン町長/ ケティ・フラド: 酒場の女主人ヘレン・ラミレス/ ロイド・ブリッジス: ハーヴェイ・ベル保安官補/		
画像			
カラー・モノクロ	モノクロ		
時間	85 分		
ストーリー	1870 年、西部の小さな町ハドリーヴィルの保安官ウィルは新妻エミイを娶ったばかりだが、以前有罪にした無法者が北部の監獄を釈放されて、復讐に町に舞い戻るといった情報が入る。標的にされた保安官ウィルは、エミイと共に町から出ていくが、途中で思い直して戻る。極悪非道な無法者を倒そうとするウィルに、町の人々は恐怖心から誰一人協力せず、新妻もあきれて逃げ出す。ウィルも怖くないと言えは嘘になるが、正義のために、町の平和のために、命をかけて戦う覚悟をする。孤立無援だったウィルの支援にまわる町の若者もあり、なによりも逃げたはずの妻エミイが体を張って銃撃戦に参加する。		
時代設定	1870 年		
場所	西部の小さな町ハドリーヴィル		
社会背景	制作当時、アメリカは赤狩りの時代であり、数百人のハリウッド関係者が密告等によって映画界を追われた。公的暴力の横行、犯罪への脅威。		
文化的背景	信念を貫くアメリカ的生き方の礼賛、個人の尊重、銃社会、女性の力の躍進、治安維持の困難さ。		
使用言語	英語		
テーマ	正しいと思うことに命を懸けて戦う者の勇気と潔さ、社会的弱者であるはずの女性の達観と底力。		

みどころ	無法者に一人で立ち向かう保安官の勇気、妻エミイの銃撃戦参加。
印象深いせりふ	Helen Ramirez: What kind of woman are you? How can you leave him like this? Does the sound of guns frighten you that much? Amy Fowler Kane : No, Mrs Ramirez. I've heard guns. My father and my brother were killed by guns. They were on the right side, but that didn't help them when the shooting started. My brother was 1watched him die. That's when I became a Quaker. I don't care who's right or who's wrong. There's got to be some better way for people to live. Will knows how I feel about it.
授業教材用 メリット	アメリカの伝統的西部劇でありながら等身大の人間をリアルに描く。ゲイリー・クーパーやグレイス・ケリーなどの往年の名優の名演技が見られる。アメリカが銃社会であることを認識させる。
授業教材用 デメリット	モノクロなので単調に見える、撮影の仕方が古い、21世紀の若者には1950年代製作当時のこの映画の斬新さがわかりにくい。
映像入手元	パラマウント ホーム エンタテインメント ジャパン/ キープ株式会社
原作の有無	ジョン・W・カニングガム (John W. Cunningham) の小説『ブリキの星』 (The Tin Star)
支持反応	Rotten Tomatoes 評価 (批評家 96、観客 89)
キーワード	西部劇、暴力、保安官、無法者、決闘、ガンマン、銃社会。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。